

高等学校農業科採点基準

4枚のうち1

【注意】問題によっては、部分点を可とする。

問題番号	正 答 [例]	採 点 上 の 注 意	配 点		
1	1	<ul style="list-style-type: none"> ・高温期の地温の上昇抑制。 ・低温期の地温の上昇促進。 ・雑草の抑制。 ・土壌水分の保持。 ・強雨時の泥水の跳ね返りを抑制することによる土壌病害防止。 ・雨による土壌浸食の防止。 ・雨による肥料流亡の防止。 ・マルチからの反射光による果実の着果促進。 ・マルチからの反射光によるアブラムシの防除。 	4つ書かれていればよい。 内容を正しく捉えていれば、表現は異なってもよい。	35	
	2	有機物による水の汚染を示す指標。	内容を正しく捉えていれば、表現は異なってもよい。		
	3	みどりの食料システム戦略			
	4	第2段階	仮説を設定し、解決方法の手順を考えて目標達成のための計画を立てる（計画立案）。		内容を正しく捉えていれば、表現は異なってもよい。
		第3段階	計画に従って継続的に実行する（実施）。		
第4段階		実行の過程や結果を考察して検討し、まとめる（反省・評価）。			
5	農業の各分野で導入されている情報機器の種類や利用方法、農業情報の活用場面に適したソフトウェアや情報メディアについて扱うこと。	内容を正しく捉えていれば、表現は異なってもよい。			
2	1	果粒を肥大させるため。	内容を正しく捉えていれば、表現は異なってもよい。	15	
	2	(1)	① (エ) ② (イ) ③ (ア) ④ (ウ)		各2×4
		(2)	総合的有害生物管理		IPM 総合的病害虫管理技術 総合的病害虫・雑草管理 総合的病害虫管理 もよい。
3	1	黒毛和種	順序は問わない。	各3×4	
		褐毛和種			
		無角和種			
		日本短角種			
3	2	イノシシは前駆が発達し肉量が少なかったため、ブタへの改良の過程で、中駆や後駆の発達を図り、肉量を増加させたこと。	内容を正しく捉えていれば、表現は異なってもよい。	24	
	3	ウィンドウレス鶏舎	無窓鶏舎 もよい。		
	4	家畜に快適な環境を整え、家畜の健康を維持するために、家畜の飼養者がアニマルウェルフェアの原則である「5つの自由」を理解し、日々の観察や記録、丁寧な取扱い、良質な飼料や水の給与等の適正な管理により、弛まぬ努力と改善を行うこと。	内容を正しく捉えていれば、表現は異なってもよい。		

高等学校農業科採点基準

4枚のうち2

【注意】問題によっては、部分点を可とする。

問題番号	正 答 [例]	採 点 上 の 注 意	配 点			
4	1	(ア) (ウ)	順序は問わない。	各 2 × 2	10	
	2	(1) (カ)				各 2 × 3
		(2) (イ) (3) (オ)				
5	1	ゲノム編集は、目的の性質を持つ遺伝子を他の生物から導入する遺伝子組換えとは異なり、元々持っている遺伝子に突然変異を起こす技術である。	内容を正しく捉えていれば、表現は異なってもよい。	6	10	
	2	遺伝子組換え生物等の使用等の規制による生物の多様性の確保に関する法律	カルタヘナ法 もよい。	4		
6	1	食品が微生物の増殖によって食べられない状態になることを腐敗といい、嗜好性・栄養性などにすぐれた状態になることを発酵という。	内容を正しく捉えていれば、表現は異なってもよい。	5	26	
	2	グルテニン	順序は問わない。	各 3 × 2		
		グリアジン				
	3	方法	木材等を不完全燃焼させ、発生する煙を食品に接触させる。	内容を正しく捉えていれば、表現は異なってもよい。		各 5 × 2
効果		風味づけをするとともに、煙に含まれる殺菌・防腐成分を食品に浸透させる。				
4	生産から消費までの全ての段階において、食品の安全を守るための「食品安全マネジメントシステム」であり、消費者へ安全な食品を提供することを目的とした国際規格。		内容を正しく捉えていれば、表現は異なってもよい。	5		
7	1	(1) 集中荷重	順序は問わない。	各 3 × 3	22	
		(2) 等分布荷重				
		(3) 等変分布荷重				
2	<ul style="list-style-type: none"> ・大気の汚染 ・水質の汚濁 ・土壌の汚染 ・騒音 		全部合っているものだけを正答とする。	8		
3	コンクリート中に存在する塩化物イオンの作用により鋼材が腐食し、コンクリート構造物に損傷を与える現象。		内容を正しく捉えていれば、表現は異なってもよい。	5		

高等学校農業科採点基準

4枚のうち3

【注意】問題によっては、部分点を可とする。

問題番号	正 答 [例]	採 点 上 の 注 意	配 点
8	1 外部機関や地域との連携を図りながら、交流対象者の疾患や障害、健康上のニーズに応じて健康増進につながる活動目標や活動計画を立て、適切な活動や支援方法を判断し、活動目標がどれくらい達成されたかを考察する実践的なプロジェクト学習を取り入れる。	問いを正しく捉えていれば、内容は異なっていてよい。	6
	2 資料Ⅰから、日本の農業・農産物の強み、魅力として、「おいしさ」「農産物の安全性の高さ」「新鮮さ」「品種の品質の高さ」が6割以上を占めていることが分かる。一方で、「ブランド力」は2割以下であり、高品質な農産物という意識に対して、その魅力を十分にアピールできていないことが分かる。 資料Ⅱから、農林水産省が「地理的表示保護制度」により国内の優れた農林水産物・食品の知的財産を保護し、ブランド化するためにGIマークを定めていることが分かる。 資料Ⅲから、地理的表示保護制度の登録により、農産物の販売単価の取引価格が向上・安定したことや、登録された伝統野菜を用いた食品目当ての観光客が道の駅を訪れるなど、農産物のブランド化が地域振興に効果があることが分かる。 農村の潜在的な価値を高め、地域振興を実現するためには、地域資源の持つ強みや魅力をブランド化し、知的財産として戦略的に保護・活用する取組が考えられる。	内容を正しく捉えていれば、表現は異なってもよい。	12
			18

高等学校農業科採点基準

4枚のうち4

【注意】問題によっては、部分点を可とする。

問題番号	正 答 〔例〕			採 点 上 の 注 意	配 点
9	過程	学習活動	指導上の留意点 (◆努力を要する状況と判断した生徒への指導の手立て)	評価規準 (評価方法)	
	導入	<ul style="list-style-type: none"> ○1学期の栽培プロジェクトの振り返りを行う。 ○本時の目標を確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○生徒自身が1学期に農機具や肥料、農薬をどのように管理していたか確認する。 		
	展開	<ul style="list-style-type: none"> ○農業生産工程管理(GAP)の概要、必要性を理解する。 ・GAPの概要とGAPに取り組むことによる効果をワークシートにまとめる。 ・1学期の栽培プロジェクトを振り返り、栽培管理上の改善点を考察し、ワークシートに記入する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○次の点に留意しながら、GAPの必要性を理解させる。 ・GAPに取り組むことで、安全・安心な食料の持続的な生産と供給に効果があることについて、グラフ及び資料を用いて理解を促す。 ・GAPのガイドラインに示された取組事項と1学期の栽培プロジェクトの進め方を照らし合わせ、その差から栽培管理上の改善点を考察させる。 		
		<ul style="list-style-type: none"> ○ハクサイの栽培プロジェクトを進めるに当たり、学校農場の状況を把握すると共に、課題を発見し、改善する。 ・学校農場の倉庫内の状況から、安全・安心な食料の持続的な生産と供給に係る課題を発見し、考えられるリスク、その理由等を考察し、ワークシートに記入する。【個人】 ・個人で考察した内容をグループで共有する。【グループ学習】 ・各グループでまとめた課題を全員で共有する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○学校農場の倉庫内の写真(資料Ⅳ)を配付し、ハクサイの栽培プロジェクトを実施する上での課題を発見させる。 ◆配付された写真から読み取れる倉庫内の状況について、GAPのガイドラインに示された取組事項と比較させる。 ・グループ学習における役割(司会・記録・発表等)を明確に指示する。 ・グループごとに発表させ、板書してまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○学校農場の倉庫内の状況を把握し、課題を発見し解決しようとしている。(ワークシート) 	問いを正しく捉えていれば、内容は異なっていてよい。
	<ul style="list-style-type: none"> ○学校農場の倉庫へ移動し、現状の器具や農薬、肥料の管理状況ではどのようなリスクが生じるのかを考察し、改善策を検討する。 ・検討した改善策とその理由について説明する。 ・倉庫内の状況を改善する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○GAPのガイドラインに示された取組事項の視点により、改善策を検討させる。 ・改善策について、GAPの視点に基づいて説明させる。 ・改善する内容ごとにグループに分け、各自の役割を明確に指示する。 			
	<ul style="list-style-type: none"> ○栽培プロジェクトで用いる圃場へ移動し、現状の圃場の整備状況ではどのようなリスクが生じるのかを考察し、改善策を検討する。 ・検討した改善策とその理由について説明する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○GAPのガイドラインに示された取組事項の視点により、改善策を検討させる。 ・改善策について、GAPの視点に基づいて説明させる。 			
まとめ	<ul style="list-style-type: none"> ○振り返り ・GAPの必要性や、ハクサイの栽培プロジェクトを進めるに当たり持続的に取り組むべき栽培管理上の改善点をワークシートにまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○次の点に留意しながら、本時の学習内容を振り返る。 ・GAPに取り組むことで、安全・安心な食料の持続的な生産と供給に効果があることを伝える。 ・ワークシートの記入状況を確認する。 ・次回の授業では実際に圃場の状況を改善することを伝え、GAPに持続的に取り組む意識を持たせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○GAPの必要性を理解している。(ワークシート) 		

40